

Annual Report 2014

ボランティア活動国際研究会

JAPAN INTERNATIONAL INSTITUTE FOR VOLUNTEERING RESEARCH

JIVRI

CONTENTS

● ボランティア活動国際研究会の概要	1
● 代表からの挨拶	2
● 「市民セクターの20年」研究会への参画	3
● 第5回東アジア市民社会フォーラムを開催	3
● 2015年度事業計画	6

ボランティア活動国際研究会の概要

JIVRIは、ボランティア活動やNPOの活動を文化的文脈の中で捉えることを目的に活動している研究会です。今日、ボランティア活動やNPOの分野では、これらを活性化させるためのグッド・プラクティスの紹介やノウハウなどの開発、あるべき論やマニュアルの作成などの促成的な啓発活動が盛んですが、それらはややもすると技術論や理念論に傾きがちで、文化的社会的視点からのアプローチは少ないといわざるを得ません。

ボランティア活動やNPO活動が根付くためには、植物にとって土や気候との調和が必要なように、文化的土壌との融合、文化の継承・発展が根底において必要と思われます。私たちは、表土の下に流れる水脈を見つけたいと思います。それによって、ボランティア活動やNPO活動をよりしっかりした永続的基盤の上にすえることができるでしょう。

私たちは、現在東アジアの国々のボランティア活動をその文化的文脈の中で捉える研究を進めています。こうした研究成果を発表したり、国際シンポジウムを開いたりして交流と理解を深めながら、当面は東アジアの共同体づくりに少しでも貢献してまいります。

代表および幹事の紹介 (敬称略)

代表	村上徹也	日本福祉大学教授、青山学院大学客員研究員
副代表	平井 昭	明治安田生命広報部審議役<社会貢献担当>
幹事/事務局長	白石喜春	(公財)公益法人協会研究員、愛媛大学・金沢大学 客員研究員
幹事	秦 辰也	近畿大学教授
幹事	毛 淑華	株式会社訳坊代表取締役
幹事	森 隆子	(会計担当)
顧問	青木利元	作家、元JIVRI代表

2015年7月現在

■ 代表からの挨拶

青木前代表から代表を引き継いだ村上から、あいさつを申し上げます。

2013年度JIVRIは、第4回東アジア市民社会フォーラムの東京開催を主催団体として実現し、東アジアにおける市民社会関係者や団体の相互理解と交流を深めることができました。また、「市民セクターの20年」研究会のほぼ隔月での開催に参画することにより、日本における市民セクターの発展の経緯と社会に与えたインパクトを検証する試みに寄与いたしました。

さらに、これらの取り組みにかかわった方々の中から新たにJIVRIに会員（次年度からは幹事）として参加する有力なメンバーも得ました。次年度からの新たな体制でのJIVRIの活動の展開に向けて、足場を固める1年であったと思います。

とくに、2009年にJIVRI（ボランティア活動国際研究会）の主催により東京でスタートした日中韓三国による東アジア市民社会フォーラムは、11年にソウルで、12年に北京で開催されて1回目のサイクルを終え、2013年からは2回目のサイクルが東京を起点に始まりました。参加国間の市民社会の相互理解と交流を促進することは、ことに東アジアの平和と協調を図る上で大きな意義を持つという考え方が、会場に集まった約130名の日中韓三カ国の市民社会関係者全員の間で共有されたことは、現下の参加国間の厳しい政治的な対立状況を考えると大変大きな成果だったといえます。

こうした青木前代表を中心に築いたこれまでの成果を引き継いで、新年度からJIVRIを更に発展させるように努力してまいります。これまで同様に皆様方にはご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

JIVRI代表 村上 徹也

2014年度事業概要

2014年度は、韓国ボランティアフォーラムを中心に韓国全州市で開催された第5回東アジア市民社会フォーラムに、日本側主催団体として参画し、東アジアにおける市民社会関係者や団体の相互理解と交流を深めることができた。

また、「市民セクターの20年」研究会の開催に参画することにより、日本における市民セクターの発展の経緯と社会に与えたインパクトを検証する試みに寄与した。

「市民セクターの20年」研究会への参画

「市民セクターの20年」研究会への参画を行い、下記の通り研究を行った。

第8回研究会(2014年5月27日)

テーマ：市民セクターとボランティア活動の20年

解説者：齊藤 ゆか氏（聖徳大学准教授）

第9回研究会(2014年7月23日)

テーマ：自治会・町内会の20年—横浜市鶴見区平安町町会・平安町福祉賛助会の取り組み

解説者：河西 英彦氏（横浜市鶴見区平安町町会・平安町福祉賛助会会長）

第10回研究会(2014年12月9日)

テーマ：今後に向けた振り返りとまとめ

コメンテーター：鈴木 滉二郎（公共経営・社会戦略研究所特任研究員）

青木 利元（作家、「市民セクターの20年」研究会顧問）

藤澤 浩子（よこすかパートナーシップサポーターズ代表理事）

シリーズ2第1回(2015年3月23日)

テーマ：民間国際協力の立場から見た、国際協力と市民セクターの20年

解説者：大橋正明（聖心女子大学教授、JANIC 理事長）

第5回東アジア市民社会フォーラムを開催

「第5回東アジア市民社会フォーラム2014」の韓国・全州市での開催

2014年10月30、31日に韓国・全州市の韓国伝統文化殿堂において第5回東アジア市民社会フォーラムをVF（韓国ボランティアフォーラム）とVK（ボランティアリング韓国）がホスト国の主催団体、JIVRI（ボランティア活動国際研究会）とCANGO（中国国際民間組織協力促進会）が共同主催団体となり、全州市ボランティアサービスセンターの協力のもとに開催した。

今回のフォーラムでは、3カ国の企業ボランティア活動の現状と発展をテーマとして、3国の市民社会と企業の関係性の強化について議論すると共に、相互理解と人材交流の機運の醸成を図った。参加者は、3カ国を合わせて約200名がつどい、日本からは壇上に上がっていただいた発表者3名を含めて、企業、財団、国際交流、NPO、NGOなどの関係者13名が参加した（韓国駐在中の2名を含む）。

フォーラムの第一部では、日中韓の企業の社会貢献活動の現状と課題について、基調講演が行われた。韓国からはKim Kyongdong氏（韓国ボランティアフォーラム名誉会長）が、韓国の企業市民としての社会貢献活動には、企業と社会の発展を同時にねらう戦略的なフィランソロピー、（例：サムソンボランティアセンター）、一般的な社会貢献活動（例：ヒュンダイモーター）、そしてCSV（Creating Shared Value）といわれる共有価値の創造を図る社会貢献（例：ホームプラスブランド）などについて解説した。中国からは Huang Haoming氏（中国国際民間組織協力促進会副理事長）が、中国企業の世界進出にともない環境保護などCSRに課題があり、市民団体との協力体制構築が求められている現状などについて報告した。日本からは嶋田実名子氏（花王芸術・科学財団常務理事・事務局長）が、1950年代からの日本のCSRの潮流について、「陰徳こそ美德」という風潮が、80年代に企業市民の考え方がもたらされ、90年代には積極的にNPO・NGOと協働するような米国型の社会貢献活動が広がり、近年はCSVなど新たなキーワードが出てきている中で、ビジネスと市民社会のボーダーレスな考え方で社会課題を解決する普遍性について述べた。

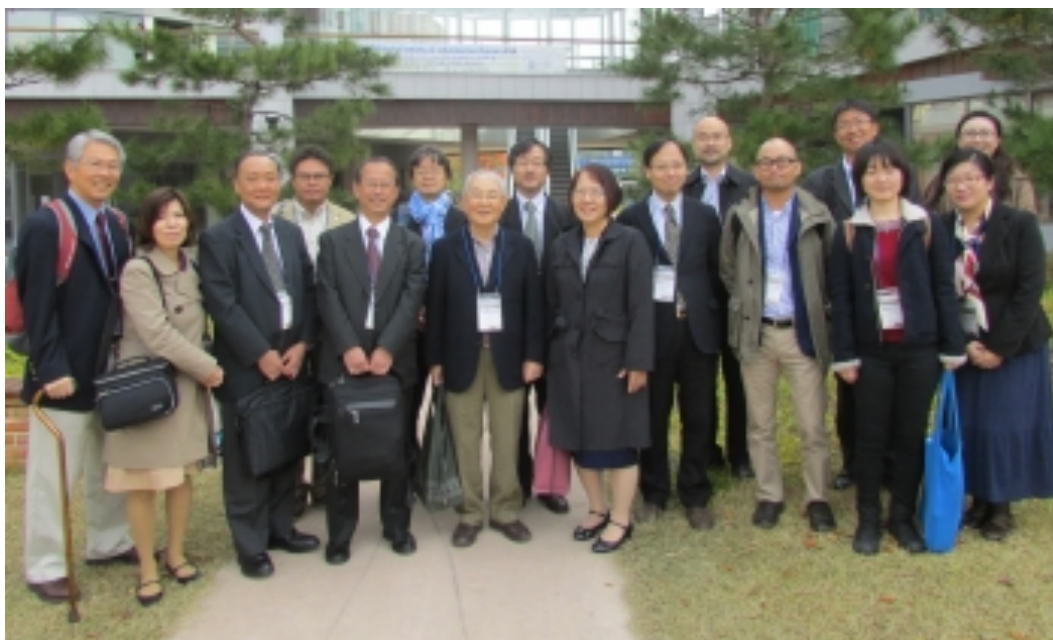
フォーラムの第2部では、基調講演をうけて3カ国から各2名の問題提起があった。韓国からは、ソウル市カンナム（江南）区ボランティアセンター所長のLee Hwaok氏が支援組織としての企業社会の役割について、サムスン社会奉仕団のTak Jiseon氏が、はじめにサムスンの「共栄を追求する」というバリューとCSR推進原則について述べた。中国から、天津大学教授のZhao Guojie氏より企業と非営利組織の調和、また異なる国々の文化の調和について、北京師範大学教授のZhang Wangcheng氏より、中国の企業ボランティアの現状と課題について問題提起がなされた。日本からは、日本NPOセンター田尻佳史常務理事がアジアにおけるCSV（共有価値創造）と企業の社会貢献活動の目標および日本における社会貢献活動の背景と現状について、トヨタ財団青尾謙氏より、日本の助成財団についての歴史と現状、特に戦後の企業による出捐で設立された財団と、その活動を支えた「社会への報恩」という観念について述べた。



続いて行われた質疑応答では冒頭で、司会のボランティア活動推進協議会（IAVE）前会長のLee Kang-hyun氏から、改めてCSRとCSVとの関係についての概念整理が行われた。会場との質疑では、主として韓国、中国の参加者から日本の登壇者への質問があり、地域社会と企業を繋ぐ中間支援、震災時の企業による被災地支援活動、企業の社員のボランティア活動を促進する休暇制度などの取り組みについて説明が行われた。質疑応答後、韓国ボランティアフォーラム（KVF）の上席副会長であるAnn Yang-ho氏より、それぞれ歴史が異なる日中韓において、ボランティア精神には共通点があることが確認できたので、今後も3か国の市民社会が利害を超えた協力が必要であり、その効果は高いといった話があった。最後にLee Kang-hyun氏からは、CSRには、技術・人材・資金の提供を通じたNPOやNGOとの協働が大切であるとの総括があった。

フォーラム2日目には、特別講演、特別報告、視察が行われた。特別講演では、韓国海外開発NGO協議会理事長のLee Jehoon氏が、日中韓の国際関係の改善に果たすボランティア活動の役割と意義について、3国の文化的共通性を踏まえつつ、利他主義・博愛精神を基盤として、地球規模の課題の共有と解決に向けた協働、未来を担う青少年への市民教育、そして平和構築のためのアドボカシーに取り組むよう訴えた。続く特別報告では、JICA中国事務所所長代理のZhou Yan氏、そして韓国国際協力事業団国際友好調整チーム部長のPark Jongmin氏が、それぞれの役割についての報告を行った。

日中の参加者向けに行われた現地視察では、全州市ボランティアサービスセンターを訪問して、インターネットを活用した機能的なニーズとウォンツのマッチング、活動に応じてオンラインで記録されたまるマイレージが公共施設で仮想通貨として使用できるシステム、ボランティア活動の成果や意義を共有するためのグループコーディネーションをコーディネーターがオフラインで丁寧に行っているなどについて説明を受けた。



第5回東アジア市民社会フォーラム2014（10月21日、韓国・全州市 韓国伝統文化殿堂）

第4回東アジア市民社会フォーラム2013（11月20日、JICA地球ひろば国際会議場）



2015年度事業計画

- コーディネーション活動と市民社会推進事業
「2015年東アジア市民社会フォーラム 中国・無錫大会」の開催への協力と参加を行う。
- 翻訳活動
「日本型『企業の社会貢献』第2部」の英訳を点検し、全文をホームページに掲載する。
- 啓発活動
「市民セクターの20年」研究会世話役会に参画して、研究会第2シリーズを開催する。
- 広報活動
JIVRIホームページの充実
- 国際連携活動
1,300団体が加盟する世界最大規模の市民社会組織の国際アライアンス「CIVICUS: World Alliance for Citizen Participation」や、70カ国の中間支援団体で構成されるCIVICUS直轄のアライアンスAGNA (Affinity Group of National Association)の活動に参加する。
- 組織強化・連携活動
JIVRIの一般社団法人化、CIVICUSへの会員加盟

JIVRI

ボランティア活動国際研究会
URL <http://www.jivri.org/index.html>